

速報: カリフォルニア州、トランスジェンダーを肯定しない親を「児童虐待」で起訴する法案

[Tony Kinnett](#) / [@TheTonus](#) / June 09, 2023



先般改定されたカリフォルニア州法案では、子供の性的移行を「肯定」することを、親の責任及び児童福祉の観点から、州の基準として追加し、自身の子の性自認を肯定しない親は、カリフォルニア州法の下、児童虐待の罪に問われることとなります。

州法案AB957は5月3日、カリフォルニア州議会を通過しましたが、6日の州議会後に共同提案者によって修正されました。

カリフォルニア州法 AB957 は、子供に対する性自認理解を、必須保育に分類するものです。

写真：ロサンゼルス的小学校で行われたプライド月間イベントで、保護者や進歩派による抗議活動を見守る警察官。(写真：Myung J. Chun, Getty Images)

サスン・シティ (Suisun City) 選出のロリ・D・ウィルソン (Lori D. Wilson) 議員が法案を作成し、2月14日に提出、共同提案者は、カリフォルニア州上院のスコット・ウィーナー議員 (サンフランシスコ選出) でした。また、ウィルソン氏の子供は、トランスジェンダーであることを公表しています。

もともとのAB957法案は、監護権をめぐる裁判で、両親に「子供の性自認に関する理解」があるかどうかを考慮するよう、裁判所に求めるものでした。ウィーナー議員の修正案は、育児法に関するカリフォルニア州の基準を、完全に書き換えてしまうものです。

修正後のAB957法案は、「子供の性自認を親が肯定することを子供の健康・安全・福祉の一部として含める」とし、カリフォルニア州における、家族法の定義とその妥当性を、包括的に書き換えるものです。

カリフォルニア州家族法3011条に基づき、両親がLGBTQ+の理念に賛同しない場合、子供をその両親の元から引き離すための、完全な権限がカリフォルニア州の裁判所に与えられます。

「子供の健康・安全・福祉を構成するものは何か」という、定義が変えられたことによって、学校、教会、病院、その他子供と関わる組織は、未成年者の「性的移行」に賛同することを義務付けられ、そうでなければ児童虐待の罪に問われる可能性があるのです。

さらに、AB957法案は、州の裁判所に対し、LGBTQ+

理念に関して「否定的な人物」の特定とその「証拠」を提供する様な団体の数を拡大させる可能性もあります。

何故なら修正案において、カリフォルニア州の「健康・安全・福祉」の基準に「性自認理解」が追加されたということで、進歩的活動家団体が「性的暴行や家庭内暴力の被害者を守る活動をしている」と主張しさえすれば、性的な「虐待」に関する通報をカリフォルニア州の裁判所は申し受けることが可能になるからです。

これはつまり、ある少年が自分の両親のことを、地元の学校にあるゲイ・ストレート・アライアンス・クラブ（意識：同性愛者と異性愛者の連帯を促す同好会）や、その他LGBTQ+関連組織に通報すればその団体や組織は、その児童の親を児童虐待として裁判所に通報できる様になるということです。

そして信じられないことに、この法案には「何が子供の性別を肯定しないことに当たるのか」、その定義がまったくなくということです。

オンライン・ニュースサイトのワシントン・フリー・ビーコンの記者、スザンナ・ルージー（Susannah Luthi）氏が指摘する様に、「この法案には、子供の年齢や、子供が自身をトランスジェンダーであると自認している期間、および社会的性別移行に関する理解と医療性転換治療の違いについて、明確な区別・基準がない」のです。

現在、カリフォルニア州の裁判所は、どの様な法律や前

例によって、両親が「肯定しているかどうか」を判断できるのか、それどころか、すべての事態に適用される様な基準を定義することも、明確にできないままです。

AB957法案は、ウィーナー氏が法令で子供のトランスジェンダーを扱った初めての法案ではありません。

子供のトランスジェンダー関連法案ではありません。

昨年、ウィーナー氏はSB107法案を作成し、カリフォルニア州を、未成年のトランスジェンダー治療及び手術の、初の聖地としたのでした。民主党のギャビン・ニューサム州知事は2022年9月、この法案に署名しました。

3月、非営利の弁護団体Advocates for Faith and Freedom（信仰と自由のための擁護者）は、ニューサム政権をカリフォルニア州西部中央地方裁判所に提訴しました。

親権擁護者や専門家らは、カリフォルニア州家族法を、根底から覆してしまうウィーナー氏の修正案を非難しました。

ワシントンに本部を置く保守系シンクタンクのヘリテージ財団、リチャード&ヘレン・デボス宗教・市民社会センターのディレクターであるジェイ・リチャード（Jay Richards）氏は、AB957法案を「グロテスクな違反行為」と呼んでいます。

（※本翻訳記事引用元のデイリー・シグナルは、ヘリテージ財団のマルチメディア・ニュース組織）

『欧州の多くの国が、子供の残忍な性医療を禁止する

中、カリフォルニア州はそれを義務付けることを決定した。カリフォルニア州は、自身の体に違和感を感じる子供達が、速やかにホルモン療法や不妊手術を受けよう仕向けたいだけでなく、州の民主党は、未だ判断しかねている親たちをも、狙いに定めているのである。これは、子供と親の両方の権利を脅かすグロテスクな違反行為であり、左派であれ右派であれ、中道派であれ、まともなカリフォルニア州民は怒りの声を上げるべきである』

Facts Law Truth Justice（事実と法、真実と正義）法律事務所、及び市民権擁護団体創設者のニコール・ピアソン（Nicole Pearson）氏は、デイリー・シグナルのインタビューで、AB957法案の違憲性を強く訴えました。

『この法案は子供の性自認を肯定しないことは児童虐待であると法制化するものです。これは、裏付ける根拠もなく、意見聴取の告知も聴聞の機会もない、最終的な法的判断を下すことと同じです。州下院の女性議員であるウィルソン氏や上院のスコット・ウィーナー議員は共に医師ではありません。よって、彼らに州内の0歳から17歳までの子ども全員について、このような判断を下すことはできないはずですが、彼らがやろうとしていることは、まさにそういうことです。

両親もしくは保護者が、彼らの7歳の子供の新しいアイデンティティが、スポンジ・ボブ（アニメのキャラクター）からバットマン、そしてドーラ（子供向け知育アニメの主人公）へと変化するのが好ましく思わない、あるいは単に受け入れる準備ができていな

いのだとしたら、AB957法案が通過した場合、その親もしくは保護者らは、児童虐待で有罪になる可能性があります。

これは、カリフォルニア州だけでなく、全米の子供たち、親、保護者らにとっての恐ろしい法案です。ギャビン・ニューサムは2028年の大統領選に向けて必死であり、ここで彼がこの法案を通してしまえば、もしも彼が大統領になった時、全米に波及していくことになるでしょう』

AB957法案は6月13日午後1時30分（太平洋標準時）、州上院での聴問会が予定されています。

※参考和訳です、内容については原文英文が優先します

記事URL

<https://www.dailysignal.com/2023/06/09/california-bill-would-charge-any-parent-doesnt-affirm-transgenderism-child-abuse/>